

2/16 早稲

もっと多くの県民の声参考に

40年超原発再稼働 県議会議長に陳情 元教員ら

県内の原発について独自のアンケートを実施したあわら市の元小学校教員橋川洋さんが十五日、県議会で畑孝議長と面会し、運転開始から四十年を超える関西電力の原発の再稼働について、もっと多くの県民の声を参考に判断するよう陳情した。

橋川さんが代表を務める「福井の原発問題を考える



畑議長(左)に原発アンケートの結果と陳情書を渡す橋川さん(右)=県議会で

会」の二人が県議会を訪れ、橋川さんが畑議長に陳情書を手渡した。橋川さんは「87%が老朽原発を動かすべきでない」と回答を寄せている。動かすべきかどうか、全県でもっと多くの県民の声を聞く機会が必要だ」と訴えた。畑議長は「県議会二月定例会で知事から再稼働に向けた投げ掛けがあれば、いろんな角度から議論をしていく」と述べた。アンケートは昨年十月下旬に新聞折り込みなどで配布してファクスで回答を集め、一月上旬までに二百二人から回答があった。

(今井智文)

原発反対市民団体 県に抗議の要請書

運転開始から四十年を超

えた関西電力の県内原発三基を巡り、杉本達治知事が「再稼働の議論に入る」と発言したことを受け、原発に反対する県内外の市民団体が十五日、県に抗議の意志を示した要請書を提出した。

サヨナラ原発福井ネット ワークなど県内の五団体を中心にした約二十人が県庁を訪れ、県原子力安全対策課の職員に各団体の要請書を手渡した。

それによると、杉本知事は県議会に四十年超運転の議論を促すには、関電が中間貯蔵施設の県外候補地を明示することが「前提」としていたにもかかわらず、今月十二日に突如「議論に入る前提がクリアされた」と、たやすく了承した」と批判。関電が搬出先と想定している青森県むつ市はその後も反発しており「状況は何も変わっていないのに、再稼働の議論を進めるといっているのは、県民への背信行為だ」と指摘した。要請書には、再稼働を認めないようになどと記した。また、県議会に対しても四十年超原発の再稼働は「慎重に判断するよう」などと求める要請書を提出した。(尾嶋隆宏)



県の担当者(左)に40年超原発の再稼働を慎重に判断するよう求める市民団体の代表者たち(右)=県庁で